

# 令和5年度 第1回社会教育委員会議事録

【日時】 令和5年（2023年）7月7日（金）13:57～16:10

【場所】 生涯学習センター5階 第1学習室

## 【出席委員】

議長	梨本 加菜	副議長	櫻井 聡
委員	浦野 千鶴	委員	小林 純子
委員	志村 直愛	委員	武石 太一郎
委員	濱田 恵里	委員	林 但
委員	蛭田 道春	委員	松本 敬之介
委員	山岸 雅人	委員	渡辺 孝夫

## 【欠席委員】

委員	臼井 護	委員	加藤 春樹
委員	八矢 信宏		

## 【事務局出席者】

教育総務部長	古谷 久乃	生涯学習課長	柿原 美奈
同課係長	島内 さおり	同課主任	遠藤 雅弘
同課アシスタント	杉山 一美	中央図書館長	山田 智子
同課職員	山口 正樹	博物館運営課長	北山 剛
美術館運営課長	岡本 剛彦	地域コミュニティ支援課長	村野 勝
同課総務係長	野村 一広		

## 【オブザーバー】

(公財)横須賀市生涯学習財団事務局長（生涯学習センター館長） 高橋 直人  
(公財)横須賀市生涯学習財団事務局主幹 原 隆之

## 1. 開会

議長が会議の開催を宣言し、会議を開始した。

## 2. 教育総務部長挨拶

教育総務部長から、挨拶を行った。

## 定足数について

委員 15 名のうち 12 名が出席し、出席者がその半数を超えるため、社会教育委員会議規則第 4 条第 1 項の規定に基づき、事務局が会議成立を報告した。

## その他

傍聴人の確認（傍聴者 0 名）、配布資料の確認を行った。

## 3. 報告

### (1) 神奈川県社会教育連絡協議会の理事について

神奈川県社会教育連絡協議会の理事について説明を行った。

事務局 本件について異議がなければ承認でよろしいか。

(異議なし、承認)

### (2) 社協連総会について

6 月 12 日にかながわ県民センターにて開催された社協連総会に、3 名の委員が出席された。

### (3) 委員の交代について

小学校長会推薦委員の交代があり、委員が交代となった。委員より自己紹介を行った。

### (4) 生涯学習課の令和 4 年度事業概要及び令和 5 年度事業概要（予定）について

生涯学習課長が、概要説明を行った。

## < 質疑応答 >

委員 生涯学習課の資料「2 人権尊重、思いやりの心の育成 ◇人権教育及び人権啓発の推進に関する講座等の開催」について、コロナ禍の前後ということもあるが、前年度の企画の中でかなり数字が大きく違っている部分があるが、その点について、どのような感想を持たれているか。歴史からみる人権については新たに取り組みされた講座なのか。何か理由があって取り組みされたのか。

生涯学習課長 人権の講座について、令和 3 年度の事業実績ではそもそも開催できなかったものが非常に多かったため、数字が大きく変わっている。令和 4 年度、全て開催できたところは非常によかったと思っているが、中には思ったような人数が集まらなかった講座もある。歴史からみる人権は過去から枠としては、ずっと行っているが、令和 3 年度は新型コロナウ

イルス感染症の影響により、実施できなかった。令和4年度は沖縄を主題に3回行い、延べ参加人数は120人で多くの方に参加していただいた。

#### (5) 図書館の令和4年度事業概要及び令和5年度事業概要（予定）について

中央図書館長が概要説明を行った。

##### <質疑応答>

- 委員 令和5年度から開始した本のセルフ貸出サービスの概要と仕組みを教えてください。
- 中央図書館長 セルフ貸出機に借りたい本を例えば10冊置き、図書館カードを読み取り、貸出ボタンを押すと一遍に貸出処理が済むようになっている。また予約した本は予約本案内機で調べて棚から自分で予約した本を取って、セルフ貸出機で貸出処理をする。返却についても、返却機に入れると自動で返却の手続きができる。
- 委員 一回見に行く。

#### (6) 博物館の令和4年度事業概要及び令和5年度事業概要（予定）について

博物館運営課長が、概要説明を行った。

##### <質疑応答>

- 委員 展示教育普及事業の中で令和4年と5年を比較すると継続しているものや廃止しているもの、「関東大震災100年」のように新たに設けたものがあるが、継続、廃止、新規の事業はどのような判断で決まっているのか説明してほしい。
- 博物館運営課長 展示については、特別展示、企画展示、トピックス展示で大きく3つに分けている。その中で特別展示というのは博物館において最も大きな展示と題して考えている。内容については、その時の目立つことを学芸員と協議をして同じ内容ではなくて、毎年変えた内容で行っている。企画展示は学芸員がほとんど自前でやっている内容である。今回は「牧野富太郎がみつめた植物」を開催したが、博物館の業界内でそういったものがドラマになるという情報が入ってくる。その中で私たちも牧野富太郎の植物標本等を持っていたので事前の段階で私たちが企画展示をやりたいと色々なところと協議をして横須賀市民に見ていただきたいという思いで内容のほうを決めているという状況である。同じ内容でやるということではなく、時代やニーズ等を勘案しながら内容を決めているという状況である。
- 委員 他の施設は具体的な来館者数の記載があり、図書館はコロナの影響も見ることができ、来館者数が増えているということがわかるが、博物館は具体的な数字がない。状況を教えてください。
- 博物館運営課長 来年度は数値を表示させていただきたい。本館の自然人文博物館は令和3年度は約5万5,000人、令和4年度は約6万人でコロナから少し回復してきたと思われる。馬堀自然教育園はアクセスがなかなか難しいので、令和3年度は1,847人、令和4年度は2,016人。

ヴェルニー記念館は令和3年度は約5万4,200人、令和4年度は約7万3,000人で、コロナ後回復している。天神島臨海自然教育園は令和3年度は約4万2,000人、令和4年度は約4万人。令和5年度は牧野富太郎の展示のおかげだと思われるが、現状としては、令和4年度の1.2倍となっている。

#### (7) 美術館運営課の令和4年度事業概要及び令和5年度事業概要（予定）について

美術館運営課長が概要説明を行った。

##### <質疑応答>

- 委員 展覧会、講演会に関する内容で、昨年度の「運慶 鎌倉幕府と三浦一族」は私も行ったが、すごい集客があった。令和5年度の目玉があれば教えてほしい。
- 美術館運営課長 運慶展にご来館いただき、ありがとうございます。当館としても初めて文化財を展示し、大規模な展覧会をさせていただいた。市民の方がたくさん来て、大成功であった。本年度は地域の資源を活用した展覧会としては1回お休みをいただく。例えば、企画展としては「躍動する韓国イラストレーションの世界」を11月18日から開催する。ご承知のとおり、今、日本と韓国の距離がまた、近づいてきているというところである。そのきっかけもあって、韓国領事館の協力を得て、海外教育機関の方にご協力をいただき、K-POPダンスや先ほど、ご紹介できなかった教育機関のトップの方がプロのオペラ歌手の方で、その方にお越しいただき、日本の地元の横須賀の音楽家の方と共演するプログラムも計画中である。それだけでなく、もちろん展示のほうも韓国を一番身近に感じるような絵本を題材にしている。また違うベクトルで考えていただけるよい機会になると思う。この企画が社会教育という視点から見ると一番目玉になる展示会になると思う。
- 委員 谷内六郎館の来館者数はどのくらいか。
- 美術館運営課長 来館者の約1/10の方がご覧になっていただいているので、年間を通じて、14万人の内、少なくとも1万4,000人以上の方がご覧になっていただいていると考えている。

#### (8) 地域コミュニティ支援課の令和4年度事業概要及び令和5年度事業概要（予定）について

地域コミュニティ支援課長が、概要説明を行った。

##### <質疑応答>

- 委員 令和5年度から実施している「コミュニティセンター講座の開催方法見直し」によって、各拠点館の2名で講座を企画し、運営は各館で行うとあるが、市内のコミセン22館分を拠点館の6名で企画をするということで、大変忙しくなり、難しいのではないかと思う。従来、各館で独自に行っていた地域の学習、地域の学びがなくなるのではないかということが一番心配である。新たな事業計画を見ていると、昔の浦賀文化センターである浦賀コミセン分館で行われていた浦賀の歴史講座はあの館でしかできない学習だと思うが、記載

がない、どうなってしまうのか。旧自治活のコミセンで行われていた講座、例えば、池上や長井で行われていた講座も今回の計画にはないので、とても心配である。一番心配しているのは各館で行われる地域の学習の成果や交流の場となっている友の会のお祭りや文化祭の発表などの、いわゆる地域の文化祭のようなものの記載が全然書かれていないが、やらないということなのか、教えてほしい。

地域コミュニティ支援課

拠点館の6名体制だが、当然、各コミュニティセンターの施設運営をする職員も実施に対して援助支援していく体制である。企画の内容については家庭教育学級、高齢者学級など、元々ベースにしているようなものに加えて、これまで行ってきた講座を拠点館で実施していくことで、例えばAという講座を他の2つの館でも同じように提供ができるようにするものに加えて、委員からお話があった、各館毎の個性については、可能な限り残していきたいと思っている。事業予定は現時点で決まっているものを記載しているため、今後またさらに企画をして、講座を実施していきたいと思っている。

委員

まだ余地はあるということか。

地域コミュニティ支援課

これまで実施してきた良いところはできるだけ残して講座企画運営を行っていききたい。友の会や文化祭は引き続き、継続して行っていく予定である。

委員

少し安心したが、心配なのは地域の学び、地域の学習というのは従来からの学習の地域の実情に応じて捉えるべきであるという考え方があると思う。横須賀市の22のコミセンがたったの3館で企画されていくということになると、例えば、北下浦の地域の問題を久里浜で考えることが本当に可能なかがやはり心配である。また、それを担当する職員への研修はどういうふうになるのかも心配である。さらに一番心配しているのが、学習者の仲間作りや学習相談、地域学習の支援をどのように支援していくかが、今度は拠点館だけでは負えないと思うので、全部の館がどういうふうに捉えていくのかというのをはっきり示してあげていただきたいと思う。

委員

各コミセンの拠点館、各地域の特色、講座の組み立て方、学級の講座のプログラムの年間事業計画と企画立案の手順はどのように行っているのか。

地域コミュニティ支援課

企画立案について、元々、行政センター併設の9つのコミュニティセンターで企画立案したものを3つの拠点館にした。それぞれの行政センターは地域との繋がりを継続して持っている。それぞれの友の会、講座実施後にできたグループの交流は持ち続けているところである。それぞれの地域の声はできるだけ吸い上げさせていただき、拠点館でなるべく質を落とさないように、これまでの良さを保ち続けて企画立案をさせていただきたい。

委員

年間の事業計画と各講座の学習計画、学習プログラム、個々の講座の企画立案はどうされているか。

地域コミュニティ支援課

カチッと形を作って企画立案をするよりはベースを持ちつつ、柔軟に企画立案をしてきたので、この場で年間の説明はしづらい。市民の皆様が講座を受講したいと引き続き思っていたら企画立案をしていきたいと思っている。

議長

このような体制にしたことで、質を落とさず、ぜひ、コミュニティセンターとして機能を充実させ、今後もこの委員会でお話を伺いたいと思う。

(各施設の説明委員退出)

#### 4. 議事

##### (1) P T A協議会への補助金の支出について

事務局から説明を行った。

- 議 長 ご意見はあるか。
- 委 員 子どもの安全を守る事業の概要を説明してほしい。
- 事務局 令和5年度はイベントを計画している。令和2・3年度は子ども110番プレートの作成のために事業費を充てた。
- 副議長 補足の説明として、子どもの安全を守る事業は講演会活動もするが、子ども110番のプレートの製作費に充てさせていただくことが多かった。
- 委 員 守る事業ではなく、子どもを守るためのプレートを作るのか。
- 副議長 コロナ前は安全講習会を開催していたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、リアルに開催ができなかったので、110番プレートの製作に切り替えていた。
- 委 員 110番プレートを掲出するための、基準はあるのか。
- 副議長 基準は通学路。保護者や商店、コンビニ、ガソリンスタンドなど、子どもがもし不審者に追いかけられたりした時に、緊急時に逃げ込める場所で、各P T Aに申請をして、P T Aで製作するという形をとっている。
- 委 員 何枚位あるのか。
- 副議長 学校による。例えば、ある学校では一時期、入学の時に保護者全員に配っていたケースもあったが、今はお断りしている。基本的には保護者ではなく、要所要所でお申し出いただいた人に設置していただく。保険も使うので、全保護者という考え方ではない。ただ、枚数が多いところは、以前たくさん貼ってしまったところがあるので、量のばらつきがある。色褪せないための特殊な加工をするため、1枚当たり400円位かかるため、予算がある時に作っておかないと急に言われても作成が追い付かないということがある。
- 委 員 県下市立高等学校P T A連絡協議会補助金について、決算額と支出額の記載は大幅に予算を超過しているが、令和4年度だけ特別な案件があったのか。今年度も引き続き経費がかかるのであれば予算をあげたほうがよいのではないかと。資料だと、大赤字に見えるので、それなりの予算額としたほうがよいのではないかと思った。
- 事務局 年に1回研修会を横浜市・川崎市・横須賀市で共同開催している。各市からそれぞれ補助金を支出している。補助金と会費を会の収入として充てている。
- 生涯学習課長 補助金と会費で運営しているので、決算上、赤字にはなっていない。補助金額は横浜市は4万5千円、川崎市は2万5千円、横須賀市は1万円である。横須賀市は1校であるので、本市としては適切な額だと考えている。次回、資料作成の際、工夫する。

議 長 本件について異議がなければ承認でよろしいか。  
(異議なし、承認)

## (2) 横須賀市市民大学講座について

事務局から説明を行った。

議 長 ただいまの説明について、何か意見・質問等があるか。  
委 員 整備してまとめられている。グラフにn=〇〇がなかったので、つけるのが鉄則だと思うため、つけてほしい。トルコの歴史のようにオンライン併用を今後も考えていくことが必要であると思った。スポーツは50代0人、文学・哲学も50代0人とあり、この世代の人は忙しくてなかなか受講が難しいと思いつつ、話を聞いていた。ただ、分析していただいたグラフにヒントはあるような気がした。

議 長 スポーツはゲームのeスポーツのことか。  
生涯学習課長 eスポーツのことである。

委 員 昨日の別の委員会で横須賀市はスポーツをやっている人が少ないということがでていたので、同じだと思い発言した。

議 長 「食べてダベってコミュUP」の講座は他に比べて特徴的な参加者の様子だったと思うが、企画に参加した委員から何か意見はあるか。

委 員 市民大学に30・40歳代で初めて参加する人がいたら、今は紙ベースでアンケートを取っていると思うが、具体的に直接、職員が深掘りして聞くと、その世代の流行りや求めていることなどがわかると思うので、よいと思った。アウトドアやソロキャンプなどは流行っていて、その世代は親子で楽しめると思うので、30・40・50歳代も参加しやすいのではないかと感じた。美術館のK-POPは、BTSなど、流行は韓国発信が多いので、10～60歳代を取り入れて、若い人に市民大学に興味を持ってもらえるとよい。オンラインの講座は子育て世代の方も参加しやすいと感じた。

議 長 小委員会でも軍港めぐりとタイアップの話がでていたようであるが、高校生や若い世代が関心を持ちそうなテーマや新しいトピックを企画できるとよい。ハイブリッド形式も今後できるとよい。ダンスや体操ができる体育館のようなところはあるのか。

財団職員 生涯学習センターには運動を行うための施設はない。複合施設であり、6階に運動を行う施設の「すこやかん」がある。2階に多目的ホールの市民ホールがあるが、床がコンクリートで絨毯を敷いているだけなので、跳躍等を伴う運動には適さない。ヨガや健康体操など軽く体を動かすものにはご利用いただいている。市民大学でそのようなスポーツ実技の講座を開催することが望ましいのかどうかということはある。生涯学習センターが行う講座は市民大学だけではなく、また、生涯学習センターの講座が横須賀市の全ての生涯学習の講座を担っているということでもない。いろいろな機関で色々な講座を行えばよいと思っている。

委 員 どのようにしたら講座に参加しやすいかを考えてみると、10代には学割が適用できないか、

20～40 代の子育て世代には託児所を提供するなどを考える必要があるのではないかと思います。

議長

現在は、託児所のサービスはあるのか。

財団職員

ウェルシティ内にある一時預かり保育室を利用できる。また、小学生対象のジュニアカレッジなどは材料費等の実費のみで受講料無料で行っている。

委員

市としては、全ての世代がまんべんなく来るとよいという目標があると考えてよいか。

生涯学習課長

70代がかなり突出している状況である。市民大学と銘打っているので、できるだけ多様な世代が参加できるような生涯学習というところを考えている。

委員

当然だが、30代は子育てで忙しい。グラフの分布は当然である。それぞれの世代が関心のあるものの講座設計に挑戦していくのは面白い。その世代に限ったものにすれば、上の年代の人がいなければ行こうと思いき行く人もいる。今、大学の授業もオンラインやオンデマンドが出てきている。需要があるのであれば、オンラインはもちろんのこと、オンデマンドでユーチューブにしておいて、カウントしていき、より多くの方に聞いていただくのも悪くない。それであれば、20代は寝る前に聞いたり、夜中2時位に聞く人もいると思う。男女共同参画やジェンダーの問題として、それぞれの年代の考え方は全然違うので、それを逆にとって、それぞれの世代の人たちを対決させるような講座も面白いと思う。最近の学生はおじいちゃん、おばあちゃんとの交流がすごく少なくなってきた。家族や自分の先祖や当たり前の生活様式や日本人の流儀を知らない人が増えてきている。世代を超えた交流をこういう場所で実現させながら上手に世代のバトンタッチができる講座が逆にできるようになると思う。80代40代10代のメンバーをワークショップで集めるなどできたら面白いと思う。そういうことが逆にできる場であると思う。テーマによってはとても面白い講座になると思う。オンデマンドは教室の大きさを問わなくなるので、大学でも650人位くる。

財団職員

オンデマンドは、今年度は、人気のある日本の城の講座で、名古屋方面にお住いの先生を講師に迎え、オンラインかつオンデマンドで開催している。録画したものを後日、会場で視聴する講座も開催しているが、オンラインやオンデマンドの受講者よりも、会場で録画を見る人のほうが多く、直接、会場で講義を聴きたいという人が多い状況である。会場に来られない方のためにオンライン講座は重要と考えており、夏期特別講座でもオンラインを併用した親子向けの防災講座を開催する予定である。ぜひ、ご受講いただきたい。

委員

小委員会でも色々な意見がでたが、数字はあくまでも受講された方のデータである。受講者の動向を知ることが大事だが、一般的な世代毎の動向を知ることが大事である。新規顧客にアプローチしようと思うのであれば、受講者のデータだけではなくて、一般社会の動向がわかるために行政としての調査に項目を入れ込むなどが考えられるが、機会も限られるし、手続きが大変だと思うのですぐにはできないということであった。来てない人に来てもらうためには来てない人の動きがわかるデータをきちんととっておいたほうがよい。この場に来ることに価値を見出している方もいる。時間消費のパターン、来やすい時間や曜日などをきちんと把握して、生涯学習センターで講座を開催する、受講の機会をどのよ



うに増やしていくか。時間と場所が決まっいて、受講者を増やすか、どこでも受けられるようにすることで受講者を増やすか、どのように着地点を見出すかということが小委員会で話がでていた。あくまで社会教育委員会議は教育委員会に提言を行うものであるので、生涯学習財団にどこまで言ったらいいのだろうと悩むところである。

委員 かなり工夫と努力をされて、実績が上がっているという話を聞いた。収入、参加者数も上がったと聞いた。財団の相当な努力のおかげだと思うので、我々は誉めてあげようという話もでていた。

委員 今日の発表もよくまとまっていることも事実であり、今までわからなかったことがわかってきた。市民大学はすごく成果が上がっていて、歴史があり、生涯学習センターは優良公民館表彰という文部科学大臣表彰ももらっている。それぞれの関係者が努力されている成果だと思う。70代、80代が多いのは一般的な傾向であることは事実である。若い世代が参加している講座もあり、努力の結果がでていく。横浜を除く、逗子や鎌倉など沿線の市町村の講座を見てみてもこれだけの講座はない。色々、メリット、デメリットがあると思うが、よりよくしていくということを考えていく。親子参加やリモートにするのもよいが、出前授業も流行っている。レベル、水準、参加者層をどういう形で位置付けていくか、受講者の利用沿線の横須賀線や京急線やマイカーなどの分布などの傾向、全体を教養として考えていくか、県民カレッジ、高等学校位を考えるか。あるいは学校では得られないような内容のものをコンテンツとして考えていくなど、少し基本的なところの位置づけをもう一度あえて出す必要があると思う。

財団職員 励みになるお言葉をいただきまして、本当にありがとうございます。講座を企画するうえで、こういう講座がよいのではないかというご意見もありがたいのだが、この講座にはこのような講師がよいとか、講師の候補者まで挙げていただけるとありがたい。担当者が色々な市民のニーズをくみ上げているが、市民ニーズがわからないというよりは、ニーズは把握できても、人の集まる講座として実現するために適任の講師を探すことが難しいのであり、これに委員のみなさまのお力をお借りできると大変ありがたいと思っている。

## 5. その他連絡事項

事務局から事務連絡を行った。

最後に、議長が閉会を宣言し、会議は終了した。

(閉会)

以上のとおり相違ありません。

議事録署名年月日 令和5年 月 日

議事録署名人